



**知得! Tips and Tricks**  
初めての人のでも分かる「ブレーキ=サミング」

初めてリールに触る人に「スプールを指で押さえてサミングしてね」と言っても分からない。当日もどう説明したものか悩んでいると、船長が「ブレーキをかけながら下ろしてね」と言うと、皆さんほぼ反射的にサミングの動作になって、タナボケが減ってアジが食いだした。同じく「クラッチを切って」も分かりにくいので「レバーを手前に倒して」と言ってみたら迷う人が減った。当たり前だけど、日常で使っている言葉に置き換えるのが近道、というお話でした。

▲「ブレーキ」と言われると分かります



▲猿島沖のアジは釣り人の間でもうまいと評判

**知得! Tips and Tricks**  
お得です。手ぶらで船釣りの料金(仕立料金もろもろ)

高取丸の例をあげると、基本料金、いわゆる船代は別掲のとおり。アジ&タチウオの場合、船代には、  
◎タチウオ用のサバエサ、アジ用のコマセと付けエサのアカタンのほか、氷が含まれる。  
道具がない場合は、これに「レンタルタックル」が必要。  
高取丸の場合は……  
◎竿&電動リール&ロッドキーパー  
◎テンピン&オモリ、アンドンビシ  
◎タチウオ仕掛け、アジ仕掛け  
◇フルセットで1組2000円。  
よく聞かれる釣り時間については、出船から帰港まで7時間と考えておけばいい。  
※なお、テナヤタチウオ用のイワシエサは別料金。ほか、マダイ、イナダのコマセ釣りは1人あたり1万円の仕立料金になる。

▶ライフジャケットは無料レンタル

●船宿information  
三浦半島走水港  
**高取丸**  
☎046-842-2280  
(詳細は巻末の情報欄参照)

▶料金=平日5人まで4万7500円。土日祝日10人まで9万5000円。ともに一人増すごとに9500円  
▶備考=仕立専門。釣り物により料金は若干変更

高取 秀和船長



▲直前まで本気で釣れなかったときに鮮魚店を探すつもりだったうちのイトコ

「タチウオとアジならどう?」  
近場で仲間たちと釣り船を仕立てたいと言うイトコに聞いてみると、  
「タチウオ、いいねえ! アジもいい!」とテンション急上昇。  
「タチウオは難しい時期だから、釣れないかもしれないよ。でも、アジなら釣れる」  
タチウオってドラゴンでしょ? すごいなあと感心するイトコ。釣りをしない人にとってタチウオは冒険心をくすぐる大物らしい。  
なんでも釣りの後に都内に戻ってパーティーを開くとかなら、アジ、それも走水周辺のアジなら型も味もおあつらえ向き。帰りに魚を買ったほ

うがいいかなあ……とメールで心配してくるイトコに、安心しなさいと返信する。  
**タチウオは釣れるのか!**  
「ほぼ全員初めてなら、シロギスとかのほうがよかったです。じゃないですかね……」  
10人分のアジ&タチウオ用のレンタルタックル一式をオヤジさんと2人で船にセットし、必要な人にライジヤケを着せ、道具の使い方、釣り方を説明して、ごく自然に、高取丸船長が言った。  
たしかに当日は大潮で釣りにくく、しかもタチウオは5月を過ぎては上向かず、専門乗合も減っていた。  
出船は7時15分。港を出ると冷たい北風が吹き付け、波はやや高め。港前からタチウオの反応を探し、水深70メートルで釣り開始。  
船の上で道具を扱う様子から、メンバー10人中、経験者3人、完全な初心者4人、なんとなくてきている人は3人と見た。  
大潮で潮が速いこともあり、船長は魚探の反応と操船で手が離せない。当然ながら私の役回りはサポート。  
とはいえ、着底が分かれば、あとは船長の言う「6〜8メ

ートルまで誘って」もらえばいい。サバエサの付け方にしても、船長が教えたのをほとんど理解している。  
もちろんタチウオの誘い方は難しい。でも、ただ置いておくだけでも、ゆっくり巻くだけでも、ラッキーパンチでガツンと、そんなときこそ決まって大型が食ってくるのがタチウオだ。  
でも、最近はおデコも出ているからタチウオは無理かな。周りでも上がってない……。と思いきや、きましたよ1本目が。  
釣り上げたのは船釣り初めての女性。ネクタイほどの小さなタチウオだが盛り上がる。どうやって釣ったのか聞いたけど、よく分からなかった。でもいいや、釣れたんだからなんて思っていると、アタリの後にハリス切れ発生。  
するとその直後、1本目を

**約束のアジ入れ食い?**  
とらえた。  
タチウオは底から2〜3メートル。まずは経験者とおぼしき男性3名が手早く底タチを取り、コマセをまいて、アタリがなければ仕掛けを入れ替える。この当たり前の手返しが、徐々にアジを寄せていく。  
釣れるのは黄色みがあった20センチ前後のアジ。最初は慣れた男性のみに釣れていたのが、次第に全員に行き渡るようになる。  
同時にタチウオも、底から1メートル上げてコマセ、また1メートル上げてコマセ、アタリがなければもう少し上げて、

はい、食った! と、上ずってくる。  
こうなると少々アバウトなタチ取りでもアジが食ってくるようになり、型も25センチほどのゴロンと太った魚体が中心となって、ついにはダブルで釣れてくる。  
やっぱりアジはこうでなくちゃね。  
そんな中でも、釣れる、釣れないを左右していたのが底タチを取ったときの「糸フケ」。ドーンとビシを着底させ、1メートルほど道糸がフケたまま釣り始めるとタチウオが低くなり、アタリが遠く、カサゴなどが釣れる。  
ここで最も効果的だったア

ドバイスが、カコミ記事にした「ブレーキ」という言葉だ。これでだいぶ糸フケが減って、タチウオが決まり、それこそ全員、食べられるのか不安になるほどの釣れっぷりになった。  
というわけで、ラスト1時間半ほどは釣りたい人はアジを釣り続け、満足した人は談笑したりして、沖揚がりの14時を迎えたのだった。  
さて。帰港後、都内に戻ってのパーティーではタチウオの炙り、アジの刺身、アジフライ、なめろうなどなど、フルコースを楽しんだそう。  
で、聞いたら、イトコ本人の誕生日パーティーだったとか。そうか、それなら来年はマダイ、それもデカイのが釣れるタイラバでやろうな!

●三浦半島走水港発↓走水猿島沖  
本誌発行人沖藤武彦 Takeda Hiroshi  
初めての船釣りはドラゴン&電動リールのアジ釣りでOK

釣り上げた女性が大きなタチウオを掛ける。  
ナニコレー! デケエー! などなど、阿鼻叫喚の船上に取り込まれたのは指幅5本サイズ。ドラゴン一歩前といった大きさだが、10人にとってはインパクト十分だ。  
「潮が緩んできたから早めにアジに行きませんか。タチウオはちよつと望み薄だし……」

**知得! Tips and Tricks**  
何はともあれ 雨具とタオル

初めて船釣りに行く人にとって「一番大切なもの」は雨具とタオル。港に集合した時点で暑いぐらいでも、港から出たとたん風が当たって急激に寒くなるのが船釣り。その体感気温の変化は、経験者でなくては分からない。  
もし雨予報で雨具を忘れていたら、幹事さんは仲間で予備を探したり、コンビニで購入してでもいいので必ず準備しよう。  
同じく欠かさないのがタオル。手をふくだけでなく、魚をつかむときにも重宝するので最低でも2枚は用意してもらおうか、幹事さんが用意しよう。

大型タチウオの盛り上がりもいつしか落ち着き、見れば皆さん置き竿。  
操舵室の魚探にはタチらしき反応が出ているけど、だれにもアタらない。うん、こりゃ無理してタチウオで粘るより、アジに行つたほうがいい。  
船長は人数分のテンピンをアンドンビシ仕様に交換、アジポイントのリサーチ開始。

▲携帯に便利な薄手のダウンの上にビニールカッパでも大丈夫